

コレクション特別展 「生誕100年 古茂田守介—イキル、カク」

会期: 2018年10月20日[土]—12月24日[月・振休]  
会場: 愛媛県美術館 新館2階 常設展示室1・2

\* 所蔵先空欄は当館所蔵作品  
\* No.93《声ノ湖》の展示期間は2018年11月3日(土)—12月24日[月・振休]

守介 ヒトをカク

	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法(縦×横/cm)	所蔵先
1	古茂田守介	自画像		インク／紙	36.5×24.0	
2	古茂田守介	人物	1937(昭和12)年	油彩／画布	53.3×45.5	
3	古茂田守介	妻	1944(昭和19)年	油彩／画布	45.5×37.5	社会医療法人 同心会 西条中央病院
4	古茂田守介	少女像	1947(昭和22)年	油彩／画布	45.5×37.9	
5	古茂田守介	少女	1947(昭和22)年	油彩／画布	53.0×40.9	
6	古茂田守介	顔	1948(昭和23)年	油彩／画布	45.5×37.7	
7	古茂田守介	婦人	1946-47年頃	油彩／板	15.8×22.7	西条市立東予郷土館
8	古茂田守介	赤いベレー帽の少女	1949(昭和24)年	油彩／画布		個人蔵
9	古茂田守介	杏子像	1948(昭和23)年	油彩／画布	41.5×32.2	ふるさと画苑 近藤泰コレクション
10	古茂田守介	ピエロ		油彩／画布	27.3×24.1	個人蔵(町立久万美術館寄託)
11	古茂田守介	子供寝姿	1948(昭和23)年頃か	インク／紙	18.7×25.7	町立久万美術館
12	古茂田守介	自画像		油彩／画布	45.0×37.7	ミウラート・ヴィレツジ(三浦美術館)寄託
	古茂田守介	ヴァイオリン	1947(昭和22)年	油彩／画布	45.5×53.0	ミウラート・ヴィレツジ(三浦美術館)寄託
13	古茂田守介	裸婦(1)	1941(昭和16)年	インク／紙	36.0×26.4	
14	古茂田守介	裸婦(2)	1941(昭和16)年	インク／紙	35.5×24.1	
15	古茂田守介	裸婦		水彩・ペン／紙	16.0×11.0	今治市玉川近代美術館
16	古茂田守介	裸婦	1953年頃か	水彩・鉛筆／スケッチブック	30.3×24.6	町立久万美術館
17	古茂田守介	裸婦(3)	1946(昭和21)年	コンテ／紙	24.1×34.6	
18	古茂田守介	座す女	1946(昭和21)年	インク・木炭／紙	28.7×21.1	
19	古茂田守介	バレリーナ	1948(昭和23)年	コンテ・水彩／紙	31.9×24.7	
20	古茂田守介	バレリーナ	1946(昭和21)年	油彩／画布	72.2×52.6	
21	古茂田守介	踊り子達	1948(昭和23)年	油彩／画布	103.0×183.5	
22	古茂田守介	画架と裸婦	1951(昭和26)年頃	油彩／画布	45.5×38.0	
23	古茂田守介	室内の裸婦	1954(昭和29)年頃	インク・墨／紙	32.0×23.5	町立久万美術館
24	古茂田守介	裸婦	1953(昭和28)年以降	インク・墨・水彩／紙	19.8×27.5	町立久万美術館
25	古茂田守介	裸婦二人	1957-58(昭和32-33)年頃か	インク・墨／紙	34.6×27.5	町立久万美術館
26	古茂田守介	裸婦(6)	1956(昭和31)年	コンテ／紙	26.0×18.0	
27	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	29.0×21.5	個人蔵
28	古茂田守介	裸婦		彩色・パステル／紙	25.5×19.5	個人蔵
29	古茂田守介	習作	1956-57(昭和31-32)年か	インク／紙	19.5×27.4	町立久万美術館
30	古茂田守介	裸婦	1956-57(昭和31-32)年か	インク／紙	27.0×19.9	町立久万美術館
31	古茂田守介	椅子に掛ける裸婦	1956-57(昭和31-32)年か	インク／紙	27.2×19.8	町立久万美術館
32	古茂田守介	二人裸婦	1957(昭和32)年	インク・コンテ・墨／紙	37.6×28.0	町立久万美術館
33	古茂田守介	裸婦二人	制作年不詳	コンテ・墨・ペン／紙	23.0×22.0	今治市玉川近代美術館
34	古茂田守介	子供(人物)	1957-58(昭和32-33)年頃か	インク・コンテ・墨／紙	18.6×14.8	町立久万美術館
35	古茂田守介	人物		パステル・水彩／紙	32.7×23.2	
36	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	34.5×23.5	個人蔵
37	古茂田守介	裸婦		コンテ・パステル／紙	32.7×24.2	
38	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	26.5×17.5	個人蔵
39	古茂田守介	裸婦		インク／紙	35.2×28.2	
40	古茂田守介	裸婦二人		インク／紙	31.8×22.7	
41	古茂田守介	裸婦	1941(昭和16)年	コンテ・ペン／紙	39.0×30.0	今治市玉川近代美術館

守介 セイブツをカク

	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法(縦×横/cm)	所蔵先
42	古茂田守介	椅子と壺	1948(昭和23)年	油彩／画布	33.6×24.3	
43	古茂田守介	静物		インク・ペン／紙	17.0×18.0	今治市玉川近代美術館
44	古茂田守介	葉三枚	1957(昭和32)年か	インク・墨・水彩／紙	26.5×36.0	町立久万美術館
45	古茂田守介	静物	1958(昭和33)年以前	油彩／画布	61.0×41.5	
46	古茂田守介	静物		インク・コンテ・木炭／紙	18.6×26.1	
47	古茂田守介	壺二つ	1957-58(昭和32-33)年頃か	インク・コンテ・墨／紙	18.6×25.4	町立久万美術館
48	古茂田守介	静物	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.4×45.4	
49	古茂田守介	静物		油彩／画布	40.2×91.2	
50	古茂田守介	静物(2)	1955(昭和30)年	油彩／画布	50.0×60.6	
51	古茂田守介	静物(1)	1955(昭和30)年	油彩／画布	65.5×91.2	
52	古茂田守介	横長の静物	1954(昭和29)年頃	油彩／画布	28.9×88.2	社会医療法人 同心会 西条中央病院
53	古茂田守介	静物	1954(昭和29)年	油彩／画布	37.9×45.5	
54	古茂田守介	三つの壺	1955(昭和30)年	油彩／画布	72.5×60.9	
55	古茂田守介	赤い壺	1958(昭和33)年	油彩／キャンバスボード	37.2×45.4	
56	古茂田守介	黄色い葉と緑の壺	1956(昭和31)年	油彩／画布	45.3×53.0	町立久万美術館
57	古茂田守介	枯れた向日葵	1952(昭和27)年	油彩／画布	33.3×45.5	
58	古茂田守介	ピワ	1959(昭和34)年	油彩／画布	72.2×60.5	
59	古茂田守介	壺とピワ	1956(昭和31)年以前	油彩／画布	53.0×72.2	ふるさと画苑 近藤泰コレクション
60	古茂田守介	犬の頭と壺など	1952(昭和27)年	油彩／画布	45.5×53.1	今治市玉川近代美術館
61	古茂田守介	干魚と壺	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.5×53.2	
62	古茂田守介	干魚	1959(昭和34)年	インク／紙	18.2×16.8	
63	古茂田守介	干魚	1959(昭和34)年	コンテ・パステル／紙	17.5×26.2	
64	古茂田守介	静物	1959(昭和34)年	油彩／画布	38.3×45.5	
65	古茂田守介	カレイ	1957(昭和32)年	油彩／画布	37.5×53.5	今治市玉川近代美術館
66	古茂田守介	貝殻	1958-59(昭和33-34)年頃	インク・コンテ・墨／洋紙	27.3×19.8	町立久万美術館
67	古茂田守介	貝(さざえ)	1959(昭和34)年頃	インク・墨・水彩／洋紙	27.7×37.0	町立久万美術館

	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法(縦×横/cm)	所蔵先
68	古茂田守介	さざえ		コンテ・水彩／紙	26.3×36.7	
69	古茂田守介	貝がら	1959(昭和34)年	油彩／パネル	32.0×41.0	
70	古茂田守介	メロンとあけびの実	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.7×53.3	町立久万美術館
71	古茂田守介	柿		鉛筆／紙	24.7×34.1	
72	古茂田守介	柿		油彩／画布	38.0×45.5	
73	古茂田守介	柿の静物	1959(昭和34)年	油彩・画布	33.3×45.5	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
74	古茂田守介	魚	1958(昭和33)年頃	コンテ／紙	30.7×40.2	
75	古茂田守介	魚(かわはぎ)	1959(昭和34)年	エッチング／洋紙	17.0×14.0	町立久万美術館
76	古茂田守介	椅子の子供		モノタイプ／紙	34.3×23.7	
77	古茂田守介	月と古い樹	1958-59(昭和33-34)年	エッチング／紙	20.0×16.0	町立久万美術館
78	古茂田守介	月と古い樹	1958-59(昭和33-34)年	エッチング／紙	17.5×14.0	町立久万美術館
79	古茂田守介	貝殻(さざえ)	1959(昭和34)年	ドライポイント／紙	13.0×12.0	町立久万美術館
80	古茂田守介	無題	1959(昭和34)年	エッチング／紙	13.0×12.0	町立久万美術館
81	古茂田守介	無題	1957(昭和32)年頃か	インク・墨／紙	27.8×19.7	町立久万美術館
82	古茂田守介	無題	1957-58(昭和32-33)年頃か	インク・墨・コンテ／紙	27.0×23.1	町立久万美術館
83	古茂田守介	無題	1958(昭和33)年頃か	インク・水彩・コンテ／紙	23.0×28.9	町立久万美術館
84	古茂田守介	無題(多くの球)	1958-59(昭和33-34)年頃か	インク・墨／スケッチブック	24.1×29.1	町立久万美術館

### 守介 フウケイをカク

	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法(縦×横/cm)	所蔵先
85	古茂田守介	丘の焼跡	1946(昭和21)年	油彩／画布	45.3×52.6	
86	古茂田守介	風景	1946(昭和21)年	油彩／画布	45.6×37.8	
87	古茂田守介	街の風景 裸婦	1946(昭和21)年 1946(昭和21)年	油彩／画布 油彩／画布	53.0×45.3 53.0×45.3	町立久万美術館 町立久万美術館
88	古茂田守介	芦ノ湖	1959(昭和34)年	パステル、グワッシュ／紙	18.0×25.0	今治市玉川近代美術館
89	古茂田守介	湖風景(芦ノ湖)	1959(昭和34)年	クレヨン／紙	27.0×19.0	町立久万美術館
90	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	インク・水彩・鉛筆・クレヨン／紙	24.0×22.0	町立久万美術館
91	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	インク・墨・水彩／紙	27.0×38.0	町立久万美術館
92	古茂田守介	芦ノ湖	1960(昭和35)年	油彩／画布	41.0×53.0	町立久万美術館
93	古茂田守介	風景	1959(昭和34)年	クレパス・鉛筆／紙	25.3×38.2	
94	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	パステル／紙	17.6×25.8	
95	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	パステル／紙	18.4×26.3	

### 守介 のカソクもカク

	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法(縦×横/cm)	所蔵先
96	古茂田公雄	少女	1940(昭和15)年	スクラッチング／印画紙	31.0×23.5	
97	古茂田公雄	静物	1939-40(昭和14-15)年	スクラッチング・着色／印画紙	22.0×26.5	
98	古茂田公雄	バレリーナ	1952(昭和27)年	油彩／画布	45.5×38.0	
99	古茂田公雄	カボチャ	1975(昭和50)年	油彩／画布	33.3×45.5	
100	古茂田公雄	岩渦巻	1955(昭和30)年	油彩／画布	60.6×72.7	
101	古茂田公雄	柿	制作年不詳	鉛筆／紙	19.9×27.5	
102	古茂田美津子	サーカスのテント	1970(昭和45)年	油彩／画布	132.0×132.0	
103	古茂田美津子	裸婦(正面)	1987(昭和62)年	油彩／画布	45.5×37.9	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
104	古茂田美津子	赤い水道塔	1971(昭和46)年	油彩／画布	45.5×53.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
105	古茂田杏子	かくれんぼ	1993(平成5)年	銅版画	19.5×29.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
106	古茂田杏子	乗りかかった船	2004(平成16)年	銅版画	20.0×20.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
107	古茂田杏子	愛合い傘	2008(平成20)年	銅版画	24.0×18.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)

### 守介 の装幀

	作者／書籍名	発行年月	出版社	所蔵先
装幀・挿絵	フランシス・ホジソン・バーネット著 吉田甲子太郎訳 岩波少年文庫73『小公子』	1968年	岩波書店	個人蔵
カバー表紙	宮本百合子『廣場』	1956(昭和31)年	河出書房	個人蔵
カバー表紙	井上靖『黄色い靴』	1952(昭和27)年10月	小説朝日社	個人蔵
カバー表紙	井上靖『雷雨』	1950(昭和25)年12月	新潮社	個人蔵
カバー表紙	堀田善衛『祖国喪失』	1952(昭和27)年5月	文芸春秋新社	個人蔵
カバー表紙	福島安雄『ポスト炎上』	1957(昭和32)年11月	機械社	個人蔵

### 略年譜

1918(大正7)	愛媛県道後村大字祝谷(現・松山市祝谷)に6人兄弟(兄2人、姉1人、弟2人)の三男として生まれる。生まれながらの喘息もちで生涯闘病することとなる。
19歳 1937(昭和12)	画家で兄の公雄に誘われ上京し、中央大学法科(夜間部)に入学。この年、公雄より猪熊弦一郎を紹介され、猪熊が開設した田園純粋美術研究室に通い始める。
20歳 1938(昭和13)	猪熊の渡欧後、猪熊と共に新制作派協会を設立した脇田和に師事する。公雄が碑文谷にアトリエを建てる。
21歳 1939(昭和14)	大学を中退し、大蔵省に勤め始める。公雄が第4回新制作派協会展にて入選する。
22歳 1940(昭和15)	第5回新制作派協会展に『裸婦』が初入選。
23歳 1941(昭和16)	日本以外の絵を描くため、北京大使館に赴任する。
25歳 1943(昭和18)	喘息悪化のため帰国後、愛媛に帰郷し静養する。秋に上京し、月光荘研究所にてデッサンに励む。この年、翌年妻となる涌井美津子と知り合う。
26歳 1944(昭和19)	美津子の勧めにより、サインを「como」に変える。美津子の師、岡田謙三と知り合う。
27歳 1945(昭和20)	父、文平死去。美津子と共に一時帰郷。公雄、実家を継ぐため帰郷し、以後無所属で愛媛を拠点に活動する。
28歳 1946(昭和21)	大蔵省を退職、画業に専念する。美津子の妹、武子の開くバレエ教室に通い踊り子を描き始める。初の個展を開催。 長女、杏子誕生。第10回新制作派協会展に『踊り子』《臥せる女》を出品、新制作派協会新作作家賞を受賞する。(第22回を除いて第23回まで出品を続ける。)
29歳 1947(昭和22)	書籍のカットや表紙装幀の仕事で生活の糧を得る。6月、第1回美術団体連合展に出品。(第5回まで続く)個展開催。第11回新制作派協会展出品。
31歳 1948(昭和23)	第1回日本アンデパンダン展に出品。以後秀作美術展、現代日本美術展等に意欲的に出品を続ける。
32歳 1949(昭和24)	新制作派協会の会員に推挙される。
36歳 1954(昭和29)	結核を併発し、これ以後アトリエにベッドを持ち込んでの制作となる。
39歳 1957(昭和32)	喘息が悪化。駒井哲郎、高橋秀と知り合い、駒井より教えを受けて銅版画制作をはじめる。
40歳 1954(昭和33)	第2回安井賞候補新人展に『はにわ(馬の頭)』『黒い魚』を出品。
41歳 1955(昭和34)	2月22日から23日に目黒区小中学校の美術教員の写生旅行(箱根方面)に講師として同行する。長男、耕吉誕生。
42歳 1956(昭和35)	喘息が悪化、発作のため肋骨を骨折する。7月21日、喘息発作によりアトリエにて逝去。